
事故と友人

会津遊一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

事故と友人

【Nコード】

N4823H

【作者名】

会津遊一

【あらすじ】

この交差点って、昔から交通事故が多いらしいぜ。そう、友人と
うわさ話をしていた所……。

「この交差点って、昔から交通事故が多いらしいぜ」

「こんな見晴らしの良い所ですか？」

「ああ、何故だか人の方から、飛び込んでいくらしい。もしかしたら、呪われているのかもな」

そう笑いながら友人は言っていた。

だが、どう見てもこの辺りには視界を邪魔するようなモノは何もない。

遠くの方を走っている車だって、ちゃんと確認できていた。

「あ、信号変わっちゃったよ。急いで渡ると危ないから次にしようか」

確かに、チカチカと赤や青が点滅し出していた。

走れば間に合う気もしたが、友人が言うので、そうすることにした。

何気なしに電柱を見ると、変色した錆のような跡を見つけた。

車が激しく衝突した事があるらしく、生々しい擦り傷も残っている。その足下には壊れたサイドミラーの破片が飛び散ったりしていた。

かなり大きな事故だったのかもしれない。

「なんだ、あれ？」

ふと、何かに気が付いた友人が道路を指さした。

見ると、歩道の白いラインの上に赤黒いシミのようなものがあつた。雨で流されて随分と色落ちしているみたいだったが、まだ微かにその面影が残っていた。

「あれって、もしかして血文字じゃないのか？」

友人の言葉に背筋がゾツとした。

確かにそう見える。

いや、そう言われたからか、もう血文字にしか見えなかった。

もしかして交通事故にあつた人が、最後の力を振り絞って書いたの

かもしれない。

「でも、ここからじゃ霞んで読めないか。もう少し近づいてみようぜ。なんて書いてあるか気になるだろ」

「そうだね」

そう言いつつ、シミに顔を近づけて確認しようとした。

刹那、骨が軋むほど強い力で誰かに肩を掴まれたのだ。

そして、目の前を大型のトラックが走り去っていった。

「君、一人で何をやっているんだ。ボーツとしたら危ないじゃないか！」

初めは怒鳴られている理由が分からなかった。

だが、状況を説明されると、次第に自分が何をしたのか理解できていった。

どうやらフラフラと一人で歩いていた所、突然道路に飛び出そうとしていたらしい。

そして、すんでの所を助けられたようだった。

そんな記憶は無いのだが、足取りが怪しかったから気になったんだと、助けた人は言っていた。

「そういえば昔も、そうやって死んだ奴がいたっけな。ただ、その時は、周りに人がいても誰も助けなかったらしいが」

とりあえず、ありがとう、とお礼を言っ頭を下げた。

助けてくれた人は気にするなと言いつ残し、何処かに行ってしまった。

最後にあの血の跡を確認すると、此方を悔しそうに睨んでいる友人の顔にも見えたような気がした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4823h/>

事故と友人

2010年12月5日15時03分発行